

## とつぜんの難問 どうする？ 自宅そばに 楽天モバイル無線基地局が?!

一日目 (2021年4月24日 土曜日)



「楽天モバイル無線基地局設置のお知らせ」の回覧板。  
家のすぐ近くだ。どうする？ この体力で何ができる？  
午後休養して、夕方もう一度熟読。

「電磁波からいのちを守る全国ネット」

<http://denjihonet.mods.jp/2021/04/08/> で最近の状況を調べる。

このまま回覧に押印して素通りはできない。どうする？  
「無理はできないが、自分にやれることをやろう。工事は5月中旬以降。短期集中決戦だ！」と気持ちを固める。

実は、わたしの心身の疲労はピークでよれよれだった。  
昨年8月、長崎の義兄に突然の「余命九カ月の宣告」。  
5歳上の姉と緊密な連絡をとって姉夫婦に伴走し続けてきた。3月、4月はがん性腹水などの進行が早く、緩和ケア病棟入院など緊張した日々、毎日、姉からの相談電話をサポート。コロナ禍で面会できない、意思伝達・心の通い合いの工夫、疼痛管理、最後の(短い)面会の日々を経て、義兄は4月20日にいいお顔で永眠された。

夜九時すぎ、友人に

『ひとまず、添付のような文書を作り、回覧板に添えますが、明日にでも町内会の会長さんのところに相談に行きたいです。幸い、工事前なので、頑張ってみたいです。先に回覧板をポストに入れますので、読んでみてください。お知恵と力を貸して下さいますか。』

すぐ読んでくれたものの、色よい返事ではない・・・が、わたしは、電波、電磁波の単位もわからず、にわか勉強に必死だった。

二日目 (4月25日 日曜日)



町内会◇組(10軒ほど)の回覧に添える文書を練り直す。

『追記：

楽天モバイル無線基地局設置のお知らせに、「回覧」のハンコを押すと、設置に賛成したことになるのでしょうか。とても不安です。

この南浦で・この家で暮らし続けたいと願っていますが、総務省のマイクロ波の規制値は 欧州評議会の勧告値の1万倍のゆるさ。それで基地局が稼働され、1日24時間、1年365日、マイクロ波の被曝を受けながら5年、10年・・・では、身体を壊し、ここでは暮らせなくなるかもしれない不安は払拭できません。

「追加工事も必要に応じてやる」とのことなので、今後(あるいはこの計画も)、「5G」なのかどうかは不明ですが、最初は小規模からはじまっても、楽天モバイルはやりたい放題にできます。

また、NTT、KDDIなども全国各地で急ピッチで設置の計画があり、各社の基地局がここに集中する引き金になるかもしれません。

土地の所有者との合意だけで、設置・稼働するには、あまりに広範囲の人々の健康が無視されています。町内会での検討が必要ではないでしょうか。』

楽天の資料・Q&Aは6枚あるので、プリントする紙の色を選んで添える。

それを持って、組長さんを訪ねる。「こうした文書を添えて回覧を回します」と伝えると、「わー、じっくり読んでくれたのね！ありがとう」「わたし一人が反対してもどうにもならないやろけど」「そんな、わからないわよ！」ときっぱり。この時のお顔と表情は、あとあとまで心のささえとなった。

新会長さんの家を教えてもらって、訪ねる。

回覧に添えた文書と、もう一つ。どの範囲まで影響があるのか、「基地局からの距離とがんによる死亡を検証した疫学調査」10年間の調査結果も載っている情報を添えた。  
[https://biz-journal.jp/2020/07/post\\_168531.html](https://biz-journal.jp/2020/07/post_168531.html)

相談をすると、話はよく聞いてもらえたが、「突然、建ったらびっくりされるので回覧した。地権者と会社の契約

なので、自治会がどうこういう問題ではない」という立場であり、「あなたが電話をしてください。」

「◇組って、どこらへん？」 30m以内のところですか。会長さんは「普段は事務所（身内の住居を兼ねた）にいます」とのこと、聞いてみると、そのガレージの道路向かいだった。「えっ、一番近いですね。」

「これは読ませてもらいます。反対が多いようであれば・・・」と最後につぶやかれた言葉がヒントになった。

わたしが、電話するのか～、頭のなかは、まっしろなまま帰宅する。

ひとまず食べよう。野菜を洗って刻んで（無心になれる）夕食をつくって、おいしく食べる。

### 三日目（4月26日 月曜日）



昨夜、友人からメールで「月曜日の午後、空いてる？」と。家に来てくれるという。相談したいアレコレを考える。

基地局の設置が中止になった事例は何がポイントだったのだろうと調べてみると、わかったことの一つは「勉強会を開いた。署名を100筆集めた。」だった。

勉強会の企画・開催は、わたしの体力では無理だし、コロナ禍でもある。署名なら、やってみようか・・・。

署名を集める方法を友人に相談した。町内の状況、人脈などの感触は、どうも当初のプランは見直した方がいいことがわかってきた。

何より力になるのは、友人から「知恵と力を貸してもらえ」ことだ。町内会有志として動こう。名前を出す必要があればOKよ！ 組長さんにも快諾いただいた。

夕方～夜は、戦略の練り直しにはいる。

「いのち環境ネットワーク」で

<https://www.ehs-mcs-jp.com/>リーフレットを注文できる。理論的な説明はそちらに任せ、身近に感じられる署名用紙をつくって、全戸配布しよう。集約は？ 連絡先は？ など、体調が万全ではないので保留だが。

このサイトの「携帯電話基地局の反対運動」。そのアドバ

イスのなかで、千金の輝きを放っていたのは、「計画を知ったら、事業者名を調べ、早めに反対の意思を伝えることが大切です。」

わたしは、ある程度署名が集まったら会長さんに届けて、そこから連絡してもらおうつもりでいたが、「それもそうだな」と納得。

よし、明日、電話しよう。

質問することを書き出して、話の流れをイメージした。

### 四日目（4月27日 火曜日）



朝、九時に電話を入れる。業務委託先 フィロンティアネットの〇様です。

高さは？14.5m/5Gですか？4Gです/近くではどこに設置？宇治市では5カ所/

5Gはいつごろ？「全く未定です！」と、ネットにある「5Gへの警鐘」への批判がはじまるが、深入りせず、

「ここには建ててほしくないと思っています。署名の宛先は、〇様でよろしいですか？」と質問すると、ビビッと反応があり、「(そんなことをしなくても)説明に行きます」これも深入りせず、

「それはそれとして、私たちは署名集めに動き始めます」

「もう建ちません」ン？ 何？ にわかには理解できない・・・

「反対があれば、建ちません。」つまり、お客様あつてのことなので、署名活動はやめてほしい、と。

「建たない」ことを文書にして会長さん宛に送ってほしいと念を押して、電話を終わりました。

思ってもみなかった展開に喜びはしたが、しかし、回覧はなかなか回ってきません。文書を見るまでは気を抜かないでおこう。

明日は金曜日だ、一度、会長さんに確認をしてみよう。

### 七日目（5月30日 金曜日）



突然、朝 9:30 楽天モバイルの久保田様から電話が入る、のんきな様子で「あなたのご意見を伺います」は？ 怒り沸騰で しばし言葉がでない。

深呼吸をして、建ててほしくないと思っている理由を、今回は理路整然と述べていきます。

「住宅密集地で、学校や高校の通学路のすぐそば・・・」  
 「健康被害についての漠然とした不安ではありません。この三十年間に健康被害については研究が格段に進み積み重なっています。世界各国ではそれに基づき、規制値が厳しく決められていっています。日本はそれらを一切無視、三十年前のまま。それで稼働して、一日 24 時間、365 日（電磁波）被ばくを受け続ける住宅地では引っ越さざるをえなくなる。」

「中止するとのことだったので、5 日間のロスがあります。すぐ署名集めを再開します。宛先は久保田様でよろしいですね。」

すでに工事は中止していると、あわてて強調される。わたし一人ではなく、「町内会有志」であることにビビッと反応があり、「(上と)対応を相談して、連絡をします。」

どの位待たされるのだろうか、一日？はきびしいな・・・、ほどなく電話が入り、「設置は中止します。」

では、中止の文書を送ってください、と確認して終了。

今回は翌日（5 月 1 日 土曜日）に、設置計画は撤回するとの文書が届きました。

簡単な経過説明を追記して、（5 月 2 日 日曜日）に会長さんに届けました。

## 暮らしのなかで



この激動の九日間で、わたしが一番、驚いたことは何？ときかれて、答えたのは、

「新型コロナウイルス期間中の家庭の学習環境についてロシア政府が勧告」の中味でした。たとえば、

「18 歳未満の子どもは、スマートフォンの使用を禁止し、有線ネットワークでインターネットに接続したパソコンやノートパソコンを利用することを勧め、無線ネットワークを使う場合は Wi-Fi アクセスポイントから 5 メートル以上離すよう求めています。」など、A4 三枚なので、目を通して見てほしい。

なんと、あたたかい政治なのだろう。

ここでは国民を人間としてみている、育ちゆく子どもたちを放置せず、見守っている。

「便利さ」といのちを引き換えにするのではなく、いのちと健康を守るための研究の積み重ねがある。

[ロシア・COVID-19 と家庭通信環境.pdf 161.2 KB]

<https://www.ehs-mcs-jp.com/> からダウンロード可

これを読んで、あらためて、自分の暮らしを振り返ると、人生で一度も電子レンジは持ったことがない。炎が見えない調理は、本能的に信用できなかった。10 年前に引越した築十年のこの家は、木にこだわった造りであった。ただ一つ、IT クッキングヒーターで、それも費用をかけてガスレンジ台に取り替えた。

母の介護中だけは携帯電話をもったが、固定電話のみ。PC は大いに重宝・活用しているが、有線ネットワークでインターネットに接続したデスクトップタイプ。光ファイバーで動画・ドラマも楽しんでいる。基本的には、紙の本の読書がメインです。

その一つひとつの選択は、電磁波を避けたいこともあったが、暮らし方を選ぶ、自分が落ち着いて生きること・その環境と方法を、動物的直感もあるが、その都度よく考えて選択してきた。

広くはないが新緑に輝く庭の木々を眺めながら、わたしの暮らしと住まいといのちを守りきったのだと、ようやく歓びが湧いてきた。